

日本応用地質学会
岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）

第6回議事録

平成20年10月20日

1. 日 時：平成19年10月16日(木)14:00～18:30
2. 場 所：応用地質学会事務局
3. 出席者：平野、遠藤、桑原、小島、都築、本間、山本、綿谷、江口（敬称略）
計9名
4. 資 料：
 - ・議事次第
 - ・資料6-1 第5回議事録（案）
 - ・資料6-2 はじめに（骨子）他
 - ・資料6-3 進捗表（10月14日修正）
 - ・資料6-4 各担当執筆原稿案
 - 資料6-4-1 10月14日配布原稿案（一部10月15日に差し替え）
 - 資料6-4-2 1章 土木構造物と岩盤分類
 - 資料6-4-3 2.3 岩盤分類の体系
 - 資料6-4-4 6.2.1 ダムの岩盤分類（骨子案）
 - 資料6-4-5 6.3.1 地下空洞
 - 資料6-4-6 7.5 材料
 - ・資料6-5 岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）工程案
5. 議 事：
 - 5-1 前回議事録の確認
誤字があったため、誤字を修正することとした。
内容については了承された。
 - 5-2 技術書について
技術書の記載内容について、資料6-2に基づき議論を行った。議論の内容結果は以下の通り。
 - ・技術書において記載する地質項目の水準は、高校地学～大学教養地学レベルとする。
 - ・技術書において記載する地質工学分野の水準はフルスケールでの記載とする。ただし、読者層が若手技術者であることを配慮し、論理構成、用語、理解するための地質学的知識などに飛躍や欠落がないよう配慮する。
 - ・技術書のイメージとしては「ダムの地質調査」のようなものとする。
 - ・文体は「である調」とする。
 - ・地質に関する新たな概念として、位置を付けて取り扱われる情報（ここでは位置地質情

報と呼称する。)と一定の空間的広がりを持った領域に属する情報(ここでは領域地質情報と呼称する。)を第1章で提唱するとともに各章においてもこの概念に即する箇所についてはこの概念を念頭に置いた記載をすることに努める。

- ・岩石や岩盤性状と工学的性質とは一定の相関をもって連続的に変化するという考え方(ここではロックシリーズと呼称する。)を第1章で提唱するとともに各章においてもこの概念に即する箇所についてはこの概念を念頭に置いた記載をすることに努める。

5-3 各担当執筆案について

10月14日に配布した原稿案(資料6-4-1)、および当日各担当から配布された原稿案(資料6-4-2~6-4-6)に基づき議論を行った。議論の内容結果は以下の通り。

① 1章 土木構造物と岩盤分類(説明は平野委員長)

- ・第1章のスタンスとして、工種すべてを俯瞰したような書き方に改める。
- ・原稿案全体を見ると言葉の使い方がまちまちであるため、「岩盤分類」の定義を第1章で記載する。また、この技術書における用語の定義をまとめた「用語集」を技術書の最初に設ける。
- ・各担当において、用語集に記載してほしい用語のリストを作成する。

② 2章 岩盤分類概説(2.2.3の説明は桑原委員)

- ・2.1は岩盤分類全体の歴史を述べることとし、各工種における記載は数行程度の内容にとどめる。
- ・岩盤分類の歴史と系統として、テルツァーギー→田中の分類、ミラー→土研式、小野寺・工藤→トンネルの岩盤分類といった流れが考えられる。この流れを意識して歴史を記載する(詳細は久野委員と桑原委員で調整する)。
- ・2.3では岩盤分類の体系図を作成しそれに基づく記載を行う。
- ・JGSの岩盤分類について触れるため、JGSの岩盤分類に影響のある外国の岩盤分類については2.3で記載を行う。

③ 3章 岩盤の地質要素と地質現象(説明は遠藤委員、桑原委員)

- ・地質要素については、このあとの各論等における記載内容を確認しながら、取り上げるべき項目を決め記載していくこととする。
- ・不連続面に関する記載がほとんどないため、この部分の記載を行う。
- ・地形についてはリニアメントについての記載を行う。

④ 4章 岩盤と工学的性質(説明は山本委員)

- ・軟岩と硬岩の区分けについて、第4章での定義を記載する。
(各論などで第4章と定義の異なる区分けがある場合はそれぞれで区分けの内容を記載する。)
- ・第4章では一般的な工学的性質について記載するものとし、各論などで個別に出てくるような工学的性質については個別に記載する。

⑤ 5章 岩盤分類における調査・計測手法の各論と適用方法(説明は都築委員)

- ・岩盤分類のための調査計測と等級の値を決める計測試験に分けて記載する。
- ・各調査試験において、岩盤分類への留意点を記載する。

- ⑥ 6.2 ダム（説明は平野委員長、綿谷委員、江口）
 - ・ 6.2.1 ダムの岩盤分類については、さらに簡潔にまとめる。
 - ・ 6.2.1 の事故例で、ダムサイト斜面と地すべり（ヴァイオント）の箇所は省略する。
- ⑦ 6.3 橋梁（説明は遠藤委員）
 - ・ 鉄道橋梁についての記載を追加する。資料については小島委員より提供する。
 - ・ 調査設計施工と岩盤分類の関係について第5章との整合を図る。
- ⑧ 6.5 トンネル（説明は小島委員）
 - ・ 最後に6.5.6として「まとめと展望」を記載する。
 - ・ 海外の岩盤分類の記載については付録と重複するため省略する。
- ⑨ 6.6 地下空洞（説明は本間委員）
 - ・ 地下空洞における注意点を事例で示すようにする。
 - ・ 一部表現を調整する。
- ⑩ 6.7 斜面（説明は江口）
 - ・ 6.7.3においてリバウンドについての記載を追加する。
 - ・ 調査設計施工と岩盤分類の関係について第5章との整合を図る。
- ⑪ 7章以降については時間がなかったため次回に持ち越し

5-4 工程について

今回の小委員会で、当初の予定ほど原稿案の進捗が進んでいなかったこと、全体の調整が必要な箇所が多くであったことから、工程の変更について以下の通りとした。

- ・ 各章毎の荒原稿（Bランク程度）を次回の12月の小委員会までに提出する。
- ・ 査読前の原稿案（Aランク）の提出は翌年3月とする。
- ・ 以降のスケジュールは原稿提出の延期にあわせ3ヶ月程度の延期とする。

5-5 次回の開催について

次回の開催は平成20年12月17日（水）とする。

審議時間が長時間に及ぶことが想定されるため、13:00からの開催とする。

場所は日本応用地質学会事務局とする。

以 上